

海外研修 A(平成 27 年度)「ベトナムコース」**個別の事前説明会(4月)**

久留米大学経済学部文化経済学科准教授

畠中 昌教

電子メール: hatanaka@std.mii.kurume-u.ac.jp

目次:

- 1.はじめに
 - 2.コース概要
 - 3.対象地域
 - 4.研修日程
 - 5.研修費用
 - 6.おわりに
- 参考文献一覧

1.はじめに

平成 27 年度の海外研修 A は、畠中が主な担当教員となり、東南アジアのベトナムにおいて実施する。研修の目的は、ベトナムという国の観光と生活について多角的に理解すること共に、ベトナムにおいて日本・日本人が行ってきた活動を過去・現在・未来について学ぶことも視野に入れている。

研修先はハロン湾、ハノイ、ダラット、ホーチミンの四ヶ所である。研修内容は自然公園(世界自然遺産)、歴史遺産、旧植民地時代の保養地、戦争史跡など主要な観光資源を視察すると共に、コーヒー園・農園・メコンデルタ見学、現地大学との交流、市場での買い物・料理教室参加など、よりベトナムの日常生活に近い体験活動も行い、ベトナムという国の観光と生活について多角的に理解することにある。

研修は東京にあるスタディツアー会社に依頼して研修コースを作成してもらい、ベトナム人ガイド・現地コーディネーターの助けを借りながら実施する形式である。単なる視察だけでなく、聞き取りなど現地調査、料理実習、現地大学との交流も行うので、現地調査やフィールドワーク関連の授業を取っている方が好ましい。また、ベトナムの都市と農村の両方に行くので、旅行や現地調査に相応しい装備や服装をそろえる必要がある。

海外研修は日本とは全く異なった国で実施するので、治安や衛生問題に気をつけて行動する必要があり、行き先の国では日本人の代表と見なされるので礼儀作法や行動も現地社会で好ましく評価されるようにする必要がある。また、せっかく研修に行ってもそれを形にしなければ何の成果も残らないし、研修に協力していただいた現地社会に対し感謝や貢献をすることができない。このようなことから、研修にあたっての説明会、事前学習ほか準備、現地での研修実施と振り返り、事後学習、発表と報告書作成は全て出席し必修とする。

大学の正規の授業や忌引きなど重要な家庭の行事を除き、無断欠席や課題をやらないことは厳禁する。やむを得ずに欠席した場合は自分で直ぐに実習して追いつくようにすること。以上のことを守らない学生については、研修での治安や衛生上の安全を確保することが困難であるし、海外研修の他のメンバーにも悪影響を及ぼすことになる。したがって、教員が問題点を指摘して指導しても改善しない場合は途中で失格になることがある。

畠中はスペインが研究対象地で、ベトナムは専門ではなく、現地の土地勘や現地語の能力はほとんどないため、参加者自身と一緒に学んでいくことになる。よって、参加する学生はガイドや担当教員に「連れて行ってもらう」という甘えた考えではなく、「研修の約束事は踏まえた上で、自分のことは自分で判断してやっていける、途中では迷子になっても一人で集合地点か日本まで無事たどり着ける」位の準備と覚悟を持って研修に行けるよう準備することを望みます。

2.コース概要

担当教員 畠中昌教 (他に、補助教員1名が現地研修には同行)

添乗員など 添乗員は同行しないので、空港での手続きなどはある程度自分で行う必要がある。ベトナムでは日本語のできる現地ガイドが全行程同行し研修実施をサポートする。

研修先 ハロン湾、ハノイ、ダラット、ホーチミン

研修目的 自然公園(世界自然遺産)、歴史遺産、旧植民地時代の保養地、戦争史跡など主要な観光資源視察

コーヒー農園訪問、現地大学生との交流、市場での買い物と料理教室などを通して人々の生活を多角的に体験
 研修内容, 研修先については, 可能であれば登録学生の意向も取り入れる

研修期間 8月下旬の予定

研修日数 6泊8日

補助金なしでの一人当たりの参加費用 20~25 万円 (円安, 手作りに近いツアーのため予定より値上がり, 参加者数で額は変動する)

最低実施人数 学生5名(参加学生が4名以下になると中止する)

最大受け入れ人数 10名程度

最大受け入れ人数を超えた場合の選考方法 レポートと面接

3.対象地域

1)ベトナム



<http://vietnamtourism.com/jn/index.php/tourism/cat/05>

2)主要研修先

ベトナム北部→中南部→南部と縦断予定

(a) ハロン湾



<http://vietnamtourism.com/jn/index.php/tourism/items/1627>

(b) ハノイ



<http://vietnamtourism.com/jn/index.php/tourism/items/1816>

(c) ダラット



<http://vietnamtourism.com/jn/index.php/tourism/items/1516>

(d) ホーチミン



<http://vietnamtourism.com/jn/index.php/tourism/items/72>

4.研修日程

以下の日程は現時点での案. 旅程, 研修内容, 予算などについては, 現地情勢, 登録学生の意向, 研修旅行の準備状況などにより一部変更になる可能性がある.

1) コース説明会

4月中の2, 3回, 昼休みを利用してコース説明会開催(4/13, 20, 27 の 12:30-13:00, 52B 教室で実施).

受講希望者は担当教員より説明資料, 申込書(海外研修エントリーシート)を受け取る

2) 申込書提出

受講希望者は申込書をコース担当教員に提出。提出期限は 2015 年 5 月 1 日 (金)、畠中の電子メール電子メール(記入内容貼り付け)と畠中研究室前提出 BOX(紙)の両方を提出すること。(提出先、提出締め切りは同じ内容を掲示する)

希望者多数の場合は、提出の早いものから順番に希望日に選考するので、早めに申し込みをすることが好ましい。参加希望者が多すぎる(40 名以上など) 場合は、申し込み受付を期限前に打ち切ることがある。

3) 選考

受講希望者が最大受け入れ人数を超えた場合は、担当教員による選考を行う。

選考は、レポートと面接の結果に加えて、申込書の内容を加味して評価する。

レポートについては、この資料最後にある参考文献一覧から 1 冊(「地球の歩き方」以外)を選び、本全体の簡単な紹介と、注目する 1 章の詳しい要約を行い、さらに自分の海外研修において参考としたい考え方・調査方法・資料を具体的に説明すること。

レポートの形式・作成方法については、演習 IB-IIA で行ったブックレポートなどを参考に学術的な文章で、文中に出典を明示する形で作成すること。

レポートを作成のために使う文献は購入するか必要な部分をコピーして線を引きながら読み、上記の内容にまとめること。

レポート提出時には、レポートを自作したことを証明するために、文章作成時に主に使用した線引き部分をコピーして、レポートに添付して提出すること。

面接については、海外研修 A を選ぶ動機、主に調査するテーマと対象地域、調査計画、治安や衛生面での対策、海外研修で自分がベトナムの現地社会や海外研修の参加者全体に対して貢献したいこと、などを質問する。

面接時にレポートを提出してもらい、海外研修に行くための準備が出来ているかどうか服装や装備も見るので、ベトナムに行くときに近い格好・持ち物で面接を受けること。

面接は 4 月下旬～5 月中旬の、基本的に月・火・水の昼休みや 5 時限以降の指定した日時・場所で行う。申込書には、自分の予定が空いている曜日・時間帯・具体的な日時を複数(なるべく多く)記入すること。面接の指定時間などは後日発表するので、掲示をよく見ておくこと。

面接の結果により、担当教員が受講生を決定し教務課に報告(5 月 29 日(金曜日)まで)し、教務課による受講者の履修登録が修了すると正式に海外研修を受講することになる。

4) 事前学習

6～7 月に 4-5 回実施

曜日・時間は水曜日 5 時限などの予定。

文献購読と発表

研修全体と、その中における各自が調べる調査対象地・調べるテーマ・対象時期の決定

研修・調査計画、調査・質問事項決定、報告書の構想などの作成と発表

現地調査で使う調査メモ(観察や聞き取りの結果)・日誌、写真、入手資料についての扱い方と整理方法の指導

装備、治安・衛生対策、礼儀作法の確認、集金と配布物確認

研修中の役割分担決定

現地における料理教室、現地で活躍する日本人との意見交換、現地大学との交流について内容確定と持参品の確認

5) 現地研修

株式会社日本エコプランニングサービス Japan Eco Planning Service Co.Ltd. (JEPS)に、オーダーメイドツアーで作成依頼。

URL : <http://www.jeps.co.jp>

詳細は今後、登録学生と詰めていく予定。

以下, JEPS 作成の研修案(暫定):

久留米大学海外研修-ベトナム- お見積り A 案

日程案★8日間

	日程	宿泊/食事
1日目	1030/1300 福岡発ベトナム航空便にて空路ハノイへ。 到着後、専用車にてハロン湾へ。(約3.5時間) 到着後、ホテルにて夕食	ハロン泊 一機夕
2日目	ホテルにて朝食後 ハロン湾クルーズ観光 昼食は船上にてシーフード料理をお召し上がりいただきます 午後、下船後、専用車にてハノイへ(約3.5時間) 夕食はハノイ市内レストランにてベトナム北部料理	ハノイ泊 朝昼夕
3日目	ホテルにて朝食 午前:古い街並みが残るハノイ旧市街を散策、その後、世界文化遺産 タンロン皇城見学 昼食はベトナム風つけ麺ブンチャーをお召し上がりいただきます 午後:ハノイ大学にて交流 アポイント及びプログラム内容は貴大学にて ※弊社はガイド及び専用車のみ手配となります 夕食は市内レストランにてベトナム料理	ハノイ泊 朝昼夕
4日目	ホテルにて朝食後 専用車にてハノイ空港へお送り 昼食はハノイ空港レストランにて 1245/1435 ベトナム航空国内線にてベトナム中部ダラットへ 到着後、ダラット市内へ、 植民地時代のヴィラを利用したリゾートホテルなど車窓見学 夕食はダラット市内レストランにてダラット名物料理 *ここで、青年海外協力隊 ダラット隊員と一緒に夕食?	ダラット泊 朝昼夕
5日目	ホテルにて朝食後、1日ベトナム料理研究家 YEN 先生のコーディネート 午前:コーヒー農園とコーヒーについてのレクチャー 焙煎体験・試飲など、市内にて昼食 午後:YEN 先生による料理教室 市場への食材買い出し同行、料理教室 (メニューはダラット名物料理3~4品を予定) 夕食は皆さんで作ったベトナム料理をお召し上がりいただきます。	ダラット泊 朝昼夕
6日目	早朝、ホテルにて朝食後、ダラット空港へお送り 0835/0920 ベトナム国内線にてホーチミンへ ホーチミン到着後、戦争証跡博物館見学 昼食はベトナム屋台風レストランにてベトナム料理 午後:ベトナム戦争の戦跡、クチトンネル観光 夕食は市内レストランにてベトナム南部料理	ホーチミン泊 朝昼夕
7日目	ホテルにて朝食 ※出発時にチェックアウト、お荷物はフロンにてお預かりいたします 午前:メコン川クルーズ(ミートー) メコンデルタ名物料理の昼食 午後:ホーチミン市内でまたはチャイナタウンの市場でお買い物 お別れ夕食はちょっと豪華に… 21時頃、専用車にて空港へ	機内泊 朝昼夕

	チェックイン	
8 日目	0035/0730 ベトナム航空便にて福岡へ 早朝、福岡空港到着	機一

●ハロン湾内カットバ島国立公園の訪問・見学は時間の制約上難しいとのことですので、現地と相談の上、カットクルーズを長めにさせていただきました。

●3 日目、午前中はハノイ旧都である世界遺産タンロン遺跡と現在の首都ハノイに残る古い街並みを比較しながら見学いたします。

●3 日目、午後のハノイ大学との交流は旅行会社からの要請は受け入れ不可となっております。

貴大学からの正式なアポイントのレターでの申請が必要です。返信が滞ったりしている場合のサポートなどはいたします。アポイント及びプログラム決定は貴大学にてお願いいたします。

交流に備えて、午後 4 時間の久留米大学御一行様の専用車及びガイドチャーターは料金に含んでおります。

交流に際してのお手伝いはガイドがいたします。

●4 日目ダラット到着時は、遅延などを考慮して、植民地時代のヴィラをリニューアルした高級リゾートなどの見学と夕食のみにいたしております。

●5 日目、ベトナム料理研究家 YEN 先生にコーディネートいただきます

午前:①コーヒー農園とコーヒーについてのレクチャー

・農園のあり方(少数民族)

・コーヒー豆ができるまでのついでの見学しながらのレクチャー

・生産・出荷について

・焙煎のレクチャー

・一般的なコーヒー焙煎とベトナムコーヒー焙煎の違い

・ベトナムと日本のコーヒーの飲み方の違い

※上記は資料配布も含めた予定です

②焙煎体験

③試飲

午後:YEN 先生と一緒に料理教室の食材買い出し(市場へ)

メニュー予定

・クレソンの牛肉サラダ

・アーティチョークと豚のスープ

・ひき肉と野菜のライスペーパー巻

・デザート シントーアボガド・アボガドコーヒー

・ベトナム米のご飯

※コホー族の概要、チルとラットグループの歴史、民話、少数民族の現在の状況などご案内予定です

※※お手数ですが久留米大学御一行様にお問い合わせください。

・包丁とまな板、そのほかお願いする調理器具

・エプロン、布巾、スプーン、フォーク、お箸などのご持参をお願いいたします。

利用予定ホテル

ハロン湾:アセアン・ハロン・ホテル

ハノイ:ギア・パオ・グランド・ホテル

ダラット:マイ・バン・ホテル

ホーチミン:ホアン・ハイ・ロン・ホテル

旅行条件

出発地	福岡	添乗員	現地日本語係員
食事回数	日程表内を参照	最少催行人数	4名(学生の方)
航空会社/座席クラス	ベトナム航空・エコミー		

燃油サーチャージ	2015年4月1日現在 6,540円
空港税	福岡970円、ホーチミン3,250円、ベトナム国内線750円

ご旅行代金 A案 (※別途上記燃油サーチャージ及び空港諸税がかかります)	
学生様4名様時	223,000円
学生様6名様時	204,000円
学生様8名様時	195,000円
学生様10名様時	191,000円
一人使用部屋代金	21,000円

JEPSの研修案はここまで。

現地での研修は、朝のミーティング、午前・午後の視察・実習、夜の振り返り・資料整理を原則毎日行う。

現地調査メモ・日誌は全員が必ず毎日つける。聞き取りの時に全部は書き切れないで、聞いたことの多くの内容が、文字にはなっていないが頭に残っている状態になるはず。このまま放っておくと数日で忘れてしまい取り返しがつかなくなるので、毎日寝る前に頭にあることを全て調査メモに書き出して清書し、出来ればその内容をスマホで撮っておくこと。

そうすれば何が起ころうと自分が調査したことは形になって残るので、帰国してから報告書を書くときに確実に進めることができる。帰国したらまず、この日誌・調査メモをパソコンで清書して提出する。

調査メモには風景・場所の雰囲気・音・香り・温度・湿度など周囲の環境に加えて、自分の感じたこと・疑問点・気づき・感情などその場で心に浮かんだ内容も記録しておくこと。後者の部分は、後で報告書を書くこと気の手がかりとして重要である。

調査メモに記入するものは文字に限る必要は無い。手書きイラスト、地図、見取り図、記号、概念図、表などを記してもよいし、更に入手した名刺や細かい資料を貼っても良い。大事なものは、調査メモを後で見直したときに、現地で体験した内容が具体的に思い出せるように記録することである。

調査メモは、未来の自分にとって重要なことが思い出せればそれで良いので、綺麗に整理しなくてもよい。

一度忘れてしまった聞き取り内容や気づきは、二度と取り戻せないことが多いです。調査などでその場か一区切りついたところで、速攻で記入できるところから形にして残す癖をつけることが好ましい。書くことが苦手であれば、とりあえずスマホに話して録音してしまい、後で清書してもよい。

調査メモをどう記入すればつけやすいか、また後で思い出しやすいかは、各自使えるやり方が異なるかもしれない。簡単な指導はするが、自分で事前に練習して、使いこなせるやり方を発見するのが大事である。

調査する相手にとって迷惑をかけないためにも、現地で写真や聞き取りをする場合は事前に許可を得てから行うこと。

調査メモには個人情報などが含まれるので安全な場所に保管し、自分と授業での提出以外には使わないこと。報告書などとして公開する時には仮名を使うなど個人を特定されないように配慮し、事前に調査でお世話になった方に内容を伝えて許可を得ること。

6) 事後学習

9～11月に4-5回ほど、進み具合によって増減あり。

日誌・調査メモをパソコンなどで清書し、手書き現物のコピーと共に全員が提出、概要を発表する。

追加の文献購読と発表。

研修・調査計画と現地調査で得た資料、聞き取りと観察などの結果、調査メモ・日誌などからデータを自作し、表や図にして分析する。

発表・報告書で扱う内容、話の流れ、目次を決定、執筆へ

7) 発表会・報告書作成

11月中旬には報告書の下書きを完成させる

11月下旬までに、報告書下書きから講演原稿とパワーポイントのスライドを作成し、プレゼンの予行演習を行う
 12月上旬、発表会でプレゼン報告、参加者の意見を元に報告書の内容を改善
 翌年1月上旬までに、報告書を完成させ、担当教員のチェックを受けて、書き直し。
 1月中旬、報告書の最終提出

5.研修費用

研修費用は、全員が払うものと、各自によって支払いが違うものに分かれる。以下に概要を書いておくので、概要を計算して、少し多めに資金を確保すること。

全員が支払う旅行会社への代金、海外旅行保険、研修や実習に必要な追加費用、点土産代などは担当教員が一括して集めて支払いを行い、研修終了後に精算し、残金は返金するか事後学習のお茶代などに使う。また、値上がりなどで予定よりも出費が多くなった場合は追加でお金を集めることがある。集金方法は、授業登録後の早い時期に前金(数万円程度)を徴収し、残額全ては旅行会社が指定する期日までに集める(出発前1ヶ月?)詳細は随時説明する。

前金などは期日までに必ず支払うこと。理由無く入金がない場合は研修を中止したとみなす。

一度集めた前金、残りの支払金は、失格などで研修に参加しなくなっても基本的に返金しない。6月ごろからキャンセルした学生分のキャンセル料が発生するからである。病気・就活など正当な理由でどうしても参加できなくなる場合は早めに申し出て、キャンセル料などがどうなるか相談すること。キャンセル料が安い場合は一部返金出来るかもしれない。

海海外研修に対する補助は、発表と報告書提出を行って単位を取れた者だけに適用される。

2014年の補助額は上限10万円、1コースあたりに割り当ててる額が決まっているため、参加者によって2-10万円とばらつきあり
 補助金振り込みは時間がかかる(年度末ごろ?)ので、旅行代金は一度全て支払う必要がある
 分割払いなどの制度はない

補助額については2015年から制度が変わるため未定、教務課経済学部担当(草場さん)に5月以降に確認

ベトナムの物価は日本よりは安いですが、価格帯は幅広い。「地球の歩き方 ベトナム」等を購入して、現地の物価、現地通貨(ドン)と日本円の為替レートなどについて自分で勉強しておくが良い。

1)旅行会社へ支払う代金(見積もり料金)

各自の希望する部屋のタイプ、参加者人数によって変化する。上記4を参照すること。交通費・宿泊費・食事代の多くと研修費用の一部が含まれる。教員が全員から集める、20~25万円程度か。

2)その他の支払料金(見積もりに入っていない料金)

海外旅行保険、点土産代、研修や実習に必要な追加費用(ハノイ大学との交流費用など)、市場での食材買い出し、コーヒー農園訪問など、全員が参加・利用するが旅行会社の見積もりには入っていない代金。これから研修の内容を確定させていくことで料金が分かってくる。教員が全員から集める、2~3万円程度か。

3)日本での交通費、旅行の必要装備購入費

各自異なるので、必要なものは自分でリストをつくり、集合場所までの交通機関と費用を計算して、かかる費用を計算しておくこと。各自で支払いする。

4)個人的な出費

お土産代、各自が自由行動時の食事など。
 各自で計算する。

6.おわりに

主担当の畠中自身も初めての海外研修です。ベトナムは昨年一度家族旅行で行ったことがあるだけです。緊張もありますが、引率教員にとっても興味深いコースですので、参加学生と共に興味を持って学べ、参加者が成長して、しかも無事にベトナムに行き帰ってこられることを目指したいと思います。

参考文献一覧

- Gourou P & 村野勉 (2014): トンキン・デルタの農民: 人文地理学的研究. 丸善プラネット.
- Leung S, Bingham B, Davies M & 阿曾村邦昭 (2012): メコン地域経済開発論. 古今書院.
- Pham ĐN, Nguyen TMH & 小高泰 (2011): おいしいベトナム料理. めこん.
- Tran VT (2010): ベトナム経済発展論: 中所得国の民と新たなドイモイ. 勁草書房.
- Võ NG & 古川久雄 (2014): 愛国とは何か: ヴェトナム戦争回顧録を読む. 学術選書 (Vol. 067). 京都大学学術出版会.
- Võ NG, 真保潤一郎 & 三宅落子 (2014): 人民の戦争・人民の軍隊: ヴェトナム人民軍の戦略・戦術. 中公文庫 (改版., Vol. [サ-8-1]). 中央公論新社.
- トウェン PT & 青木由希子 (2001): ベトナムの料理とデザート. PARCO 出版.
- 今井昭夫, 岩井美佐紀, 遠藤聡 & 坂田正三 (2012): 現代ベトナムを知るための 60 章. エリア・スタディーズ (第 2 版 ed., Vol. 39). 明石書店.
- 今井昭夫, 岩崎稔, 生井英考, et al. (2010): 記憶の地層を掘る: アジアの植民地支配と戦争の語り方. 御茶の水書房.
- 伊藤千尋 (2011): 観光コースでないベトナム: 歴史・戦争・民族を知る旅 (新版). 高文研.
- 伊藤哲司 (2001): ハノイの路地のエスノグラフィ: 関わりながら識る異文化の生活世界. ナカニシヤ出版.
- 伊藤忍 (2011): ベトナム×ハノイ 36 通りグルメ. YUBISASHI (Vol. . とっておきの出会い方シリーズ: ワンテーマ指さし会話||トッテオキ ノ デアイカタ シリーズ: ワン テーマ ユビサシ カイワ). 情報センター出版局.
- 伊藤忍 & 福井隆也 (2006): ベトナムめし楽食大図鑑. 情報センター出版局.
- 友田博通 (2003): ベトナム町並み観光ガイド. 岩波アクティブ新書 (Vol. 77). 岩波書店.
- 土屋健治 (1991): カルティニの風景. めこん選書 (Vol. 2). めこん.
- *地球の歩き方編集室 (2014): 地球の歩き方 ベトナム 2014~2015 (改訂第 20 版 ed.). 東京: ダイヤモンド社. (全員購入, 中古で1年くらい古くても良い. レポートで使う図書からは除外する.)
- 坪井善明 (2008): ヴェトナム新時代: 「豊かさ」への模索. 岩波新書 (Vol. 新赤版 1145). 岩波書店.
- 増田彰久 & 大田省一 (2006): 建築のハノイ: ベトナムに誕生したパリ. 白揚社.
- 宮沢千尋 (2005): アジア市場 (マーケット) の文化と社会: 流通・交換をめぐる学際的まなざし. 南山大学人類学研究所叢書 (Vol. 7). 風響社.
- 寺本実, 岩井美佐紀, 竹内郁雄 & 中野亜里 (2011): 現代ベトナムの国家と社会: 人々と国の関係性が生み出す「ドイモイ」のダイナミズム. 明石書店.
- 山田隆一 (2008): ベトナム・メコンデルタの複合農業の診断・設計と評価: ファーミングシステムズ・アプローチを基礎として. 農林統計協会.
- 岸由二, 伊藤嘉昭 & Stockholm International Peace Research Institute (1979): ベトナム戦争と生態系破壊. 岩波現代選書 (Vol. NS 503). 岩波書店.
- 川越道子 (2009): ベトナム「おかげさま」留学記: 「異文化」暮らしのフィールドノート. ブックレット《アジアを学ぼう》(Vol. 13). 風響社.
- 日本放送出版協会 & 木村一膳 (2002): スクマムの香りパパイアの味: ベトナム食紀行. 日本放送出版協会.
- 早稲田大学総合研究機構ベトナム総合研究所 (2010): 東アジア新時代とベトナム経済. 文眞堂.
- 星野龍夫 & 森枝卓士 (1995): 食は東南アジアにあり. ちくま文庫. 筑摩書房.
- 春山成子 (2004): ベトナム北部の自然と農業: 紅河デルタの自然災害とその対策. 古今書院.
- 春山成子 (2009): 自然と共生するメコンデルタ. 日本地理学会『海外地域研究叢書』(Vol. 7). 古今書院.
- 春山成子, 藤巻正己 & 野間晴雄 (2009): 東南アジア. 朝倉世界地理講座: 大地と人間の物語 (Vol. 3). 朝倉書店.
- 春日尚雄 (2014): ASEAN シフトが進む日系企業: 統合一体化するメコン地域. 文眞堂.
- 木村汎, Nguyen DD & 古田元夫 (2000): 日本・ベトナム関係を学ぶ人のために. 世界思想社.
- 板垣明美, 末成道男, 武内房司, 宮沢千尋 & 樫永真佐夫 (2008): ヴェトナム変化する医療と儀礼. 春風社.
- 柿崎一郎 (2011): 東南アジアを学ぼう: 「メコン圏」入門. ちくまプリマー新書 (Vol. 154). 筑摩書房.
- 桜井由躬雄 (1997): 緑色の野帖: 東南アジアの歴史を歩く. めこん.
- 森枝卓士 (1997): 図説東南アジアの食. 河出書房新社.
- 森枝卓士 (2005): ベトナム・カンボジア・ラオス・ミャンマー. 世界の食文化 / 石毛直道監修 (Vol. 4). 農山漁村文化協会.
- 森枝卓士 (2009): 図説世界 100 の市場を歩く. ふくろうの本. 河出書房新社.
- 槇太一, 内藤登世一, 堀岡治男, 四谷晃一 & 水ノ上智邦 (2006): メコン地域の経済: 観光・環境・教育. 京都学園大学総合

研究所叢書 (第 1 版 ed., Vol. 7). 大学出版センター.

横山智, 荒木一視 & 松本淳 (2012): モンスーンアジアのフードと風土. 明石書店.

牧久 (2012): 「安南王国」の夢: ベトナム独立を支援した日本人. ウェッジ.

石田正美 & アジア経済研究所 (2005): メコン地域開発: 残された東アジアのフロンティア. アジ研選書 / アジア経済研究所 [編] (Vol. no. 1). 日本貿易振興機構 アジア経済研究所.

石田正美 & アジア経済研究所 (2010): メコン地域: 国境経済をみる. アジ研選書 / アジア経済研究所 [編] (Vol. no. 22). 日本貿易振興機構アジア経済研究所.

秋葉まり子 (2008): いまベトナムは: 経済の移行と発展への道のり. 弘大ブックレット (Vol. No. 4). 弘前大学出版会.

菊池誠一 & 阿部百里子 (2010): 海の道と考古学: インドシナ半島から日本へ. 高志書院.

西口清勝 & 西澤信善 (2014): メコン地域開発と ASEAN 共同体: 域内格差の是正を目指して. 晃洋書房.

野間晴雄 (2010): 文化システムの磁場: 16-20 世紀アジアの交流史. 關西大學東西學術研究所研究叢刊 (Vol. 37). 關西大学出版部.

野間晴雄 (2014): 環東シナ海をめぐる文化とひとの交流. 東アジア沿海の歴史生態と文化交渉シリーズ (Vol. 1). 「環東シナ海・環日本海沿岸域の文化交渉と歴史生態をめぐる学術的研究」研究グループ.

関本紀子 (2010): はかりとものさしのベトナム史: 植民統治と伝統文化の共存. ブックレット《アジアを学ぼう》(Vol. 20). 風響社.

高田洋子 (2009): メコンデルタ: フランス植民地時代の記憶. 新宿書房.

高田洋子 (2014): メコンデルタの大土地所有: 無主の土地から多民族社会へ: フランス植民地主義の 80 年. 地域研究叢書 (Vol. 27). 京都大学学術出版会.

*事前学習, 人数が多い場合のレポートなどで使用します.

「地球の歩き方 ベトナム」は全員購入してください.

基本文献は「今井昭夫, 岩井美佐紀, 遠藤聡 & 坂田正三 (2012): 現代ベトナムを知るための 60 章」あたりでしょうか.

参加を希望する人は, 基本文献を図書館で借りて必要なところをコピーして読むか, 中古で良いので購入してください.

また, 研修について自分が注目しているテーマに関する文献は, 早めに複数に目を通して, テーマを絞っていくこと.